オーディオ実験室収載

PCM-DSD_Converter の評価(2)
―512sDSD への変換(2)―

１．始めに

前報(1)では、PCM-DSD_Converter により CD からリッピングした 44.1KHz, 16bitWAV ファイルを 512sDIFF に変換してみました。今回は、192 KHz, 24bitWAV 音源から 512sDIFF に変換することを試みました。

２．PCM-DSD_Converter による 512sDSD への変換

変換前の 192 KHz, 24bitWAV は BS 録画から TASCAM DA-3000 で 192 KHz, 24bitWAV のフォーマットで直接録音したものです。

変換については変換前音源のフォーマットが違うだけで、前報(1)とまったく同じ手順で変換します。問題なく変換できたように見えましたが、HQPlayer で再生することはできませんでした。本ソフトは、44.1KHz の系列と 48KHz の系列でそれぞれ変換することができるという制限があるので、そのためと思われます。そこで 192 KHz, 24bitWAV を予め TASCAM Hi-Res Editor により、192 KHz, 24bitWAV から 44.1KHz の系列の 176.4KHz, 24bitWAV に変換しておき、176.4KHz, 24bitWAV から 512sDIFF に変換したところ HQPlayer で再生することができました。

３．PCM-DSD_Converter による 512sDSD への変換音源の試聴

試聴は、512sDIFF 音源と元の 192 KHz, 24bitWAV を外付け HDD に収納し、HQPlayer と micro　iDSD で再生しました。

音質としては、元の 192 KHz, 24bitWAV より、音が柔らかく緻密になる感じがします。

４．まとめ

48KHz の系列 192 KHz, 24bitWAV はあらかじめ 44.1KHz の系列の 176.4KHz, 24bitWAV に変換しておくことで 512sDIFF に変換することができました。まわりくどい変換で手間はかかりますが、音質的なメリットはありそうです。

以上